

① 研究業績

1. 著書

- ・「台湾という身体の「再現」—真杉静枝を書くということ—」垂水千恵、張季琳主編『日本文学における台湾』台北：中央研究院人文社会科学研究センター、41—62 頁、2014 年 10 月
- ・「一九三〇年代日本文学における「野蛮」への共鳴をめぐって」垂水千恵、池内輝雄・木村一信・竹松良明・土屋忍編『＜外地＞日本語文学への射程』東京：双文社出版、31—51 頁、2014 年 3 月
- ・「戦後の創作活動から見る、台湾人作家にとっての「日本語文学—邱永漢・黄霊芝を例として」垂水千恵、郭南燕編『バイリンガルな日本語文学—多言語多文化のあいだ』東京：三元社、275-291 頁、2013 年 6 月
- ・「日本文学中的少数民族之飲食文化象徴 —以開高健的《日本三文歌劇》、小松左京的《日本阿帕契族》、梁石日《賭夜》為討論中心」垂水千恵、焦桐編『山海戀 原住民飲食文學與文化國際學術研討會論文集』台北：二魚文化、180—195 頁、2013 年 1 月

2. 論文

- ・「丸谷才一の顔を避けて—『裏声で歌へ君が代』試論」垂水千恵、『新潮』101 巻 11 号、175-185 頁、2014 年 10 月
- ・「「世界文学」と文化の政治—張愛玲「色、戒」の日韓翻訳を例として」垂水千恵・黄善美、『ときわの杜論叢』創刊号』111 - 128 頁、査読有、2014 年 3 月
- ・「表象之鏡：當代台灣／日本如何描繪彼此—以吉田修一《路》及魏德聖《海角七號》為中心—」垂水千恵、『中語中文学』第 56 輯、韓国中語中文学会、453-470 頁、査読有、2013 年 12 月

3. 科研費実績

- ・「基盤研究 (C)」26370424、平成 26 年度～平成 28 年度、「台湾文学における日本表象の相互性」(共同研究)、研究代表者・四方田千恵 (垂水千恵)、直接経費総額 340 万円
- ・「基盤研究 (C)」23520421、平成 23 年度～平成 25 年度、「台湾現代文学におけるセクシュアリティおよび日本表象のポリティクス」(共同研究)、研究代表者・四方田千恵 (垂水千恵)、直接経費総額 370 万円。

4. 学会発表、他

(1) 国際学会発表

- ・「日本人作家如何描繪臺灣「獨立」—以丸谷才一《用假聲唱！君之代》為論述中心——」垂水千恵、臺灣大學臺灣文學研究所主催「第一屆文化流動與知識傳播—台灣文學與亞太人文的相互參照」國際學術研討會、2014 年 6 月 20～21 日 (招聘)
- ・「日籍作家所描繪的新竹—以日丈影吉《騷動的屍體》為中心—」垂水千恵、國立新竹教育大學中國語文學系與新竹市政府主催「第 1 屆台灣「竹塹學」國際學術研討會」2013 年 11 月 8, 9 日 (招聘)
- ・「表象之鏡：當代台灣／日本如何描繪彼此—以吉田修一《路》及魏德聖《海角七號》為中心—」垂水千恵、2013 年度韓国中語中文学会聯合國際學術大会」2013 年 11 月 1-3 日 (招聘)
- ・「「世界文學」與文化政治—以張愛玲《色、戒》の日韓翻譯為例」黄善美・垂水千恵、国立台湾大学主催「文化流動與知識傳播——方法論與實例研究國際學術研討

会」2012年11月9-10日（招聘）

(2) 招聘講演

- ・ 「圓桌論壇」垂水千恵 國立台灣師範大學主催「第八屆台灣文化國際學術研討會」第1屆台灣 2013年9月5-6日、（招待講演）
- ・ 「1930年代日本文學對「野蠻」的共鳴-以大鹿卓《野蠻人》、谷崎潤一郎《武州公密話》、山部歌津子《番人萊沙》為中心-」垂水千恵、國立政治大學邀請國際傑出教學及研究人才計畫（招待講演）、2013年3月5日

② 社会活動

- ・ 日本台灣学会第8期常任理事（2013.5～現在に至る）
- ・ 日本台灣学会第7期常任理事（2011.6～2013.5）

③ 学内活動

- ・ 世宗プログラム運営委員（2013.4～現在に至る）
- ・ 世宗プログラム準備委員会委員（2011.10～2013.3）
- ・ 日韓理工系プログラムWG委員（2010.4～現在に至る）